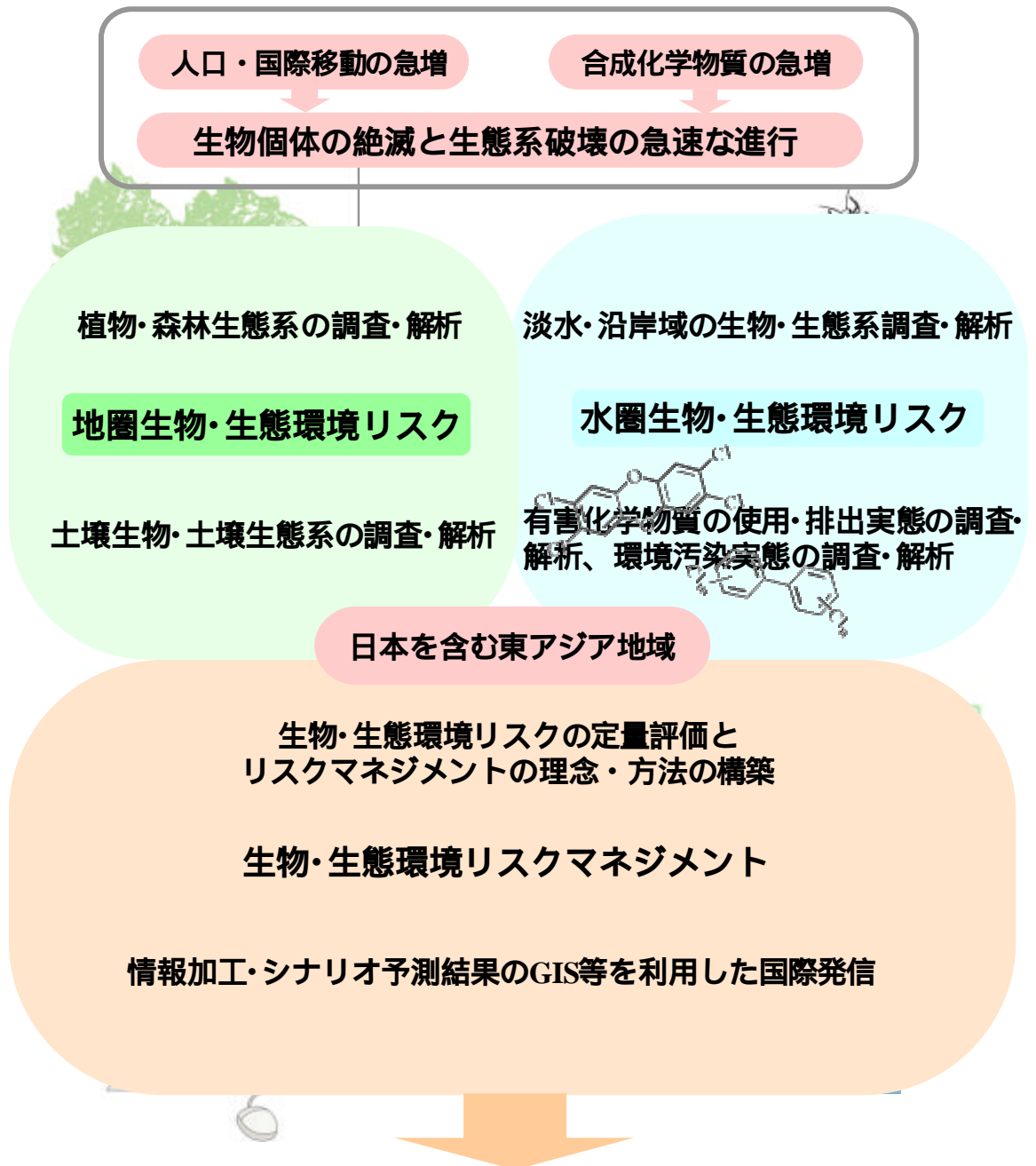


(様式1)

大 学 名	横浜国立大学	学 問 分 野	学際、複合、新領域
専 攻 等 名	大学院環境情報研究院 自然環境と情報部門・人工環境と情報部門 社会環境と情報部門		
拠点のプログラム名称	生物・生態環境リスクマネジメント		
拠点リーダー氏名	浦野 紘平	所属部局・職	大学院環境情報研究・教授
プログラムの概要	日本を含む東アジア地域を対象に、環境リスク情報を収集、解析、発信し、生物絶滅リスクの低減と生態系(生物多様性)保護に役立つ新しい実践的な環境科学を進展させ、地球思考を持って行動できる人材の育成を行う。		
拠点形成の目的・必要性	20世紀後半から人口と化学物質使用の急増などによって、生物の絶滅と生態系の破壊が急速に進んでいる。とくに、アジア地域の生物・生態系の保護が極めて重要になっている。そこで本拠点では、日本を含む東アジア地域の森林とそれを支える土壌(地圏)、及び河川・湖沼や沿岸海域(水圏)における生物・生態系に関する情報と有害化学物質利用等の人間活動に関する情報を現地調査と文献・電子情報によって収集・解析し、国際的に発信する。また、生物・生態環境リスクの評価の理念と方法を確立し、リスクマネジメントの概念と構想を提示する。さらに、国内外のネットワークを形成し、研究者だけでなく、行政や市民にも分かりやすく使いやすい情報を発信するとともに、地球思考を持って行動できる人材の育成を行う。		
研究拠点形成実施計画	本拠点は、森林植生・生態系と土壌生態系(地圏)のリスクに関する調査・研究を行うグループ1、有害化学物質の影響を含めた淡水水生生物・生態系と沿岸水域生態系(水圏)のリスクに関する調査研究を行うグループ2、及びグループ1と2からの大量の環境リスク情報を蓄積、整理し、いくつかのマネジメント手法を採用した場合のシミュレーション予測を行い、地理情報システム(GIS)等を活用して国際的に発信するとともに、教育システムを検討・改善し、全体を総括するグループ3の3つのグループを有機的に組織して形成する。当初2年間は、現地調査を含めた基礎情報の収集を行い、生物・生態環境リスク評価の理念と方法について検討するとともに、タイや中国などの国外連携機関及び国内関係機関とのネットワークの形成と大学内の研究体制の確立を行う。		
教育実施計画	本拠点では、事業推進担当者と招聘外国人研究者等によるCOE講義を開講するとともに、関連する国際シンポジウム・ワークショップ等の企画・運営や参加及び現地調査の企画運営や参加等の自主的で実践的、国際的な活動を推奨して単位認定するなどの大学院カリキュラムの改訂を行う。また、これらの活動に対して旅費等の経済的な支援制度を新設する。とくに、博士課程後期の学生には、英語での発表や討論、大学外での調査・研究を義務づけ、地球思考を持った行動のできる人材の育成を目指す。		

21世紀COE「生物・生態環境リスクマネジメント」



- 🌿 日本とアジア地域の学際的研究者ネットワークの構築
- 🌿 実用的な情報によるアジア地域の生物・生態系保護の促進
- 🌿 実践的な環境科学分野「生物・生態環境リスクマネジメント」の発展
- 🌿 地球思考に基づいた行動ができる人材の育成